

## 混乱長期化で供給網に影響も

### ■バングラデシュ、暫定政権樹立も先行き不透明

バングラデシュの政治的混乱により、サプライチェーンに影響が出ている。コンテナ船社関係者によると、6日時点でチッタゴン港は稼働しているが、現場職員は少なく、コンテナの移動も鈍くなっているようだ。内陸輸送も停滞しており、港湾混雑も懸念されている。同国では、衣料品・繊維品産業が集積しており、アパレル製品などを世界各国に輸出していたが、政治的混乱が長期化すれば、生産地移転なども含めてサプライチェーンに大きな影響が出る可能性もある。

同国では、公務員の採用制度を巡る学生による抗議活動から、反政府デモに発展し、大規模な混乱に陥った。ハシナ首相が5日に辞任し、今後暫定政権が樹立される見通しだ。こうした中、政府は6日付で、4日から続いていた夜間外出禁止令を解除した。通信状況も回復しているようだが、政治状況については予断を許さず、治安情勢についても引き続き見通しが立たない状況となっている。

6日時点で税関や港湾のオンラインシステムは稼働しているが、港湾の

オペレーションは限定的で、内陸輸送も停滞している。今後情勢が改善したとしても、混雑などの影響がしばらく続くとの見方が強い。

バングラデシュは、アパレル産業の一大拠点となっているが、生産についても工場が停止する事態に陥っている。かつては中国が主要生産地だったが、中国から東南アジア各国へのシフトが進んだ。その後、2021年のミャンマーの政変を受けて、バングラデシュが移転先として注目された。しかし今回の政変の影響が長期化すれば、サプライチェーン上のバングラデシュの位置付けが変化する可能性もありそうだ。